

# 令和 4 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	2 1		学校名	茨城県立水戸商業高等学校				課程	全日制			学校長名	山本 俊之			
教頭名	國廣 正法								事務(室)長名	和田 靖						
教職員数	教諭	5 4	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	4	事務職員	3	技術職員等	3	計	7 4
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数			
	商 業 科		6 0	6 0	4 9	7 2	4 8	7 0	/	/	1 5 7	2 0 2	9			
	情報ビジネス科		6 1	1 9	5 2	2 7	4 5	3 5	/	/	1 5 8	8 1	6			
	国際ビジネス科		2 3	5 7	3 4	4 5	2 7	5 1	/	/	8 4	1 5 3	6			

## 2 目指す学校像

文武両道の精神を重んじ、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、情操豊かで創造性に富み、地域社会やビジネス界が求める幅広い知識と技術を備えた人間性豊かな人財を育成する学校

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えのない問いに自ら挑戦し続ける人財の育成</li> <li>・ 学びを社会に生かそうとする人財の育成</li> <li>・ 地域に信頼され、地域から必要とされる人財の育成</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実社会につながる学び</li> <li>・ 全ての教科が連携した学び</li> <li>・ 幅広い進路実現に対応した学び</li> </ul>
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 失敗を恐れずチャレンジできる生徒</li> <li>・ 自分で考え判断し、積極的に表現する生徒</li> <li>・ 部活動や学校行事をとおして、チームで協働する生徒</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得による目的意識の高揚と学習意欲の向上を図っているが、家庭学習 1 時間未満の生徒がほとんどである。</li> <li>・生徒の学びが受動的であり、「主体的・対話的で深い学び」になっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら計画を立て学習する習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る必要がある。</li> <li>・探究的な学びを積極的に取り入れ、批評・論述・討論などの学習活動を充実させる必要がある。</li> <li>・「スマート専門高校」としてデジタルトランスフォーメーション等に対応した地域の産業界を牽引する人財の育成を図る必要がある。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生になっても、就職と進学について決定できない生徒が多い。</li> <li>・進学はほとんどの生徒が推薦・総合型選抜入試を利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの意思と責任で進路を主体的に選択する資質・能力の育成を図る必要がある。</li> <li>・各教科等に探究の手法を取り入れるとともに、言語能力の育成を図る必要がある。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前と比べて挨拶のできない生徒が増えてきている。</li> <li>・自転車乗車時のマナーや交通ルールが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を促す生徒支援の充実を図る必要がある。</li> <li>・交通ルールの遵守と事故防止の徹底が急務である。</li> <li>・多様な生徒に対応した教育相談の充実を図る必要がある。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文武両道の精神のもと、部活動に積極的に参加する生徒が多い。</li> <li>・生徒は特別活動部主催の行事に積極的に参加している。</li> <li>・ホームルーム活動は、クラス担任に任されており、計画的、組織的、系統的な指導になっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と部活動の両立を図れるよう継続的に支援する必要がある。</li> <li>・学校行事運営への主体的な生徒参画が必要である。</li> <li>・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を活用し、自身のキャリアについて振り返る必要がある。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の指導や、教材研究、生徒指導などに時間がかかるため、1か月の残業時間が45時間を超える教員がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の見直し、削減を図るため、校務分掌の再構築を進める必要がある。</li> <li>・業務等の効率化を図るため、授業や校務のICT化を推進する必要がある。</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

1	心の教育を充実させ、社会性や豊かな人間性を育成する。
2	「何のために学ぶのか」という明確な目標を持つことで学習意欲を向上させ、主体的な学びを実現させる。
3	生徒が自らの在り方・生き方を考え、自らの意思と責任で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。
4	生徒が生き生きとした学校生活を送れるように、生徒の自主的・自立的な活動の充実を図る。
5	生徒が明るく安心して学べる学校づくりを目指し、地域社会と連携しながら校内支援体制を充実させる。
6	I C T教育の充実を図り、働き方改革を推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 豊かな心を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主性・自立性の育成</li> <li>・他者との協働</li> <li>・挨拶（心を開いて 心に迫る）</li> </ul>
2 確かな学力の育成と専門性の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら計画を立て学習する習慣の確立</li> <li>・各学科に応じた専門的な知識・技能の習得及び資格取得</li> <li>・基礎学力の定着・向上及び主体的な進路選択</li> </ul>
3 社会の変化に対応した人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科、グローバル化に対応した教育の充実</li> <li>・キャリア教育の充実（デュアル、インターンシップなど）</li> </ul>
4 特別活動、部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事運営への主体的な生徒の参画</li> <li>・ホームルーム活動、生徒会活動の充実</li> <li>・部活動の充実（強くて愛される部活動）</li> </ul>
5 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページによる情報発信及び広報活動の充実</li> <li>・地域貢献活動の推進（ボランティアなど）</li> </ul>
6 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌の再構築</li> <li>・会議削減の工夫</li> <li>・I C T活用の推進</li> </ul>